助成・寄付寄贈報告

ポケットファイルやリングファイルなどの事務用品や消毒用品など、ご寄附をお待ちしています。

研修会・講演会のご案内

◆ **定期研修会「Be サポ事例研究会」**

研修内容は、原則、奇数月に成人事例のアセスメントを中心としたもの、偶数月に子どもの事例検討を行っています。参加者の皆様とさまざまな意見を出し合いながら、その人らしさを理解し、今後の支援の在り方や方向性を一緒に考えていきたいと思います。

日時：原則、毎月第３水曜日 18：30～21：00　　場所：プラサヴェルデ沼津
参加費：Be サポ会員無料、非会員 1,000 円／1 回
参加資格：心理士、スクールカウンセラー、支援員、教員など、守秘義務を課せられた専門職の方が参加できます。
初めて参加される方は Be サポートまでご連絡ください。
今後の予定：**10/20、11/17、12/15、1/19**（新型コロナの影響で、中止・変更の可能性がありますのでご了承ください）
※この研修会は、臨床心理士資格認定協会の資格更新ポイント（定例型）の申請を予定しています。

Be サポート業務一覧

相談・カウンセリング事業
カウンセリング、プレイセラピー、EMDR、各種心理検査

医療・保健・福祉・教育等 地域機関への協力
母子保健事業（乳幼児健診・発達相談・療育教室）
：伊豆市・伊豆の国市・清水町・長泉町
教育委員会（就学支援・特別支援教育・巡回相談）
：函南町・清水町・伊豆市・長泉町
市民メンタルヘルス相談　：　伊東市・富士市
県および市町主催ゲートキーパー養成事業
県立高校スクールカウンセラー・学校支援心理アドバイザー
看護学校スクールカウンセリング
NPO 法人静岡犯罪被害者支援センター
社会的養護関係施設第三者評価事業

被災者支援事業
東日本大震災被災者支援活動「OHANA」

不登校・ひきこもり支援事業
沼津市　：　東部圏域　居場所「なごみ」（県委託事業）
伊豆市　：　伊豆圏域　居場所「とっこ」（県委託事業）

企業・事業所への支援事業
メンタルヘルスカウンセリング
企業研修会への講師派遣

研修・啓発事業
専門職対象の定期研修会開催
一般市民対象の講演会開催

児童発達支援事業
障害児・者総合サポートセンターみつばち
----------沼津市----------
保育所等訪問支援　／　児童発達支援「あんず」
放課後等デイサービス「かりん」
----------伊豆市----------
放課後等デイサービス「みかん」

相談支援事業
指定計画相談支援・指定障害児相談支援「び～さぽーと」

Be サポート会員募集中

NPO 法人とは、利益を目的とせず社会や地域のニーズを追求し応える活動を行う団体です。臨床心理士を中心とした有志で Be サポートを設立しました。専門的な視点から地域のさまざまなこころの問題に取り組んでいます。現在、正会員 49 名、賛助会員 3 名（2021.8 月末時点）で活動しております。

私たちの活動を応援してくださる会員さんを募集しております。会員の方へは会報誌の送付、研修会や講演会での参加費が優待されます。また地域で働く援助職の方には、ネットワークづくりとしても活用していただいております。会員のご登録をいただける方は Be サポート事務所までご連絡ください。

特定非営利活動法人 臨床心理オフィス Be サポート

クローバー通信

2021 年 9 月 15 日発行 Vol.27

NPO 法人 臨床心理オフィス Beサポート
〒4100056 沼津市高島町 29-11 盟萌ビル 201
Tel/Fax 055-925-1701
Mail be-sapo@mail.wbs.ne.jp
HP http://be2011.jimdo.com/
発行責任者　皆川行寛

- 新型コロナウィルス感染症対策として、Be サポートではすべての事業において「手指および室内の消毒」「常時換気」「マスク着用」「検温」等を実施しております -

コロナ禍の相談に感じること　　Be サポート理事　加藤 好子

「コロナ禍の時代」と言われて１年半が経過します。静岡県の感染者も増加傾向にあり、私たちの行動、生活スタイル、家計は大きく制限され続けています。Be サポートでは、ここ沼津市の相談室での相談活動のほか、療育施設みつばちでの子どもたちの支援、東部圏域いくつかの市町の乳幼児相談、小中高校での相談、企業からの相談、市民相談など、多くのご相談に携わらせていただいていますが、年齢に関係なく、発達や育ち、メンタルヘルスへの影響が確実にあると実感しています。今回は、実際にお受けしたご相談や経験をいくつかご紹介したいと思います。（プライバシー保護のため、文章内の属性はすべて架空です。）

３歳児検診で発達の遅れの心配を指摘されたＡくん。お母さんの傍から離れず、新しいおもちゃにも恐る恐るです。お母さんからの聞き取りでも、年齢相応にできないことや言葉の遅れもあるようです。しかし、1 時間一緒に遊ぶうちに、色や大小、長短の理解はしていることがわかったり、新しい遊びにどんどん興味関心を広げていく様子が見られました。確かに、発達の遅れが全くないとは言いきれません。しかし、2 歳前からのコロナ禍で、公園や乳幼児教室など他のお子さんと接する機会がほとんどなく、おうちでお母さんと遊ぶしかなかったとのこと。コロナ禍の「ソーシャルディスタンス」が、お子さんの成長発達に必要な社会経験を奪っていると感じざるを得ません。

昨年３月から５月末までの学校の一斉休校、その後もたくさんの学校行事が制限され、子どもたちも先生方もいつもと違う学校生活に戸惑いや葛藤が大きかったことと想像します。特に、中 1、高 1 生は混乱の中のスタートでした。通常であれば４月中に実施されるクラス遠足など馴染むためのイベントもなく、すぐに授業が慌しく始まり、期間を置かずテストの連続。余裕がない学校生活で、７月ごろから欠席が増えた学校が多かったように思います。高校１年のＢさんは、見学期間が 2 日しかなく入った部活がどうしても合わず退部したことをきっかけに、学校生活がうまくいかなくなりました。その他にも、話せる子ができない、休校中から昼夜逆転、学校に行けない、という相談が増えたと実感しています。

東京の一人暮らしから地元にＵターン就職したＣさんは、慣れない仕事の上、自宅も居心地悪く、月１回、学生時代の友だちと東京で遊ぶことがストレス解消でした。しかし、東京には行けず地元での楽しみもなく、仕事の効率は落ち、家族との関係も悪化して、うつっぽくなりました。

人間関係が得意でなかったＤさんは、半年近いリモートワークの期間はストレスなく仕事できていました。しかし、登社を求められて初めて、外出や登社が怖くなってしまったことに気づきました。

コロナ禍の「新しい生活様式」は、コミュニケーションや社会のあり方に大きな変化をもたらし、私たちが知っているこれまでの社会適応の工夫、生き方の工夫が通用しなくなっています。マスク越しにもこちらの表情が伝わるように、一生懸命にお話を聞かせていただいていますが、本当にどうしたらいいかわからず無力感を感じることがしばしばあります。今はただ、おひとりで悩みを抱え込まないよう、絶望に追い込まれないよう、どんな工夫ができるか一緒に悩むことしかできません。私たち心理士も、さらなる勉強と忍耐が必要なことを痛感しています。

ありがとう イトーヨーカドー沼津店　～ 駐車場のご案内 ～

昭和 53 年の開店以来、沼津で親しまれてきたイシバシプラザ／イトーヨーカドー沼津店が、令和３年８月 22 日に閉店となりました。43 年間、ありがとうございました。
Be サポートのすぐ向かいにあり、カウンセリングや心理検査で来所された方の憩いの場、運営のための買い出しの場などとして、開所以来大変お世話になってきました。

イシバシプラザの駐車場（タイムズ駐車場・有料）は、平面部分はこれまで通り使うことができます。Be サポートにお越しの際は、引き続きご利用いただけます。

活　動　報　告

障害児・者総合サポートセンターみつばち「あんず」

コロナ禍になり一年半！周りはザワザワしていますが、『あんず』は、変わりなく…元気に過ごしています。

マスクをつけ始めた頃、口元が見えず表情が伝わるかを心配しました。が、子どもたちの環境適応能力は高く、そんなコトは気にならず、キチンと目を見て、私たちの言わんとしていることを感じ取って、笑って、怒って、拗ねて、抱っこして！！たくさん遊んでいます。

夏の水遊びは、感染・密防止で、短時間の水鉄砲や、おはじき拾いなど。暑い夏の活動の中のリフレッシュタイム。10分遊ぶだけでも、子どもたちの笑顔が弾けます♪

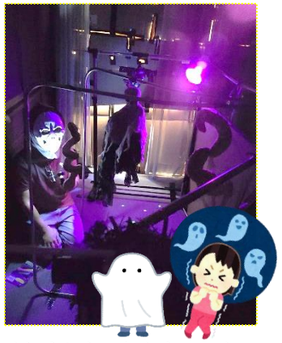
夏の壁面は、海！タコやクラゲや魚が泳いでいます。子どもたちと一緒に作りました。

これからは、美味しいものがいっぱいの季節♬壁面が実りの秋に変わっていきます。今からワクワク楽しみです。

夏休みの一日、大きな紙を駐車場に広げて、大きな絵をみんなで描きました。「虹の上を歩いてるの～♪」と夢を叶えた女の子♡一緒に歩かせてもらいました。とってもいい気分❗そのあと「虹の下でねるの～♪」と横になる姿も。想像の翼を大きく広げて過ごせました。

障害児・者総合サポートセンターみつばち「かりん」

今年も新型コロナウィルスの影響で、夏祭りは規模を縮小して開催しました。でも、そんな中でも、子どもたちはそれぞれのゲームに熱中して取り組み、スーパーボールすくいでは40個近くとる子が現れ、スタッフを驚かせました。中には思ったような結果にならず怒りだしてしまった子もいましたが、落ち着く時間をとることで、気持ちを切り替えて、最後まで参加することができました。



名物のおばけやしきは、感染対策のため、今年はドアを開けると骸骨がたたずんでいる「びっくりばこ」という形で実施しました。一回目は怖くて、宝箱の中身を取らずに逃げだしてしまった子もいましたが、時間を置くことでリベンジしたいという気持ちが湧いてきたり、スタッフに付き添われて再挑戦したりして、見事に未知の恐怖を乗り越えてくれました。知らないこと、予想通りにならないことが苦手な子どもたちにとって、今回の経験がわずかでも自信につながってくれればと思います。

そして、夏祭りの締めはかき氷！好きなシロップを選んで、みんなで静かに味わいました。

今年も、制約の多い夏休みになってしまいましたが、子どもたちが少しでも夏っぽさを感じ取ってくれていると嬉しいです。

障害児総合サポートセンターみつばち伊豆「みかん」

昨年は、緊急事態宣言下での全国一斉休校があり、その影響で夏休みが短期間しかありませんでした。そのため、今年がみかんにとっての、初めての本格的な夏休みです。感染予防対策をしながら、安心・安全に利用が継続できるよう、検温やマスク、手洗い、手指消毒の約束を、毎日の朝の会・帰りの会で　繰り返し伝えながらのスタートとなりました。

猛暑なので、プール遊びもさせてあげたいところでしたが、ビニールプールでマスクを外した状態で密になるため、プールは順番に一人ずつとしました。その代わり、芝生の庭での水遊びが、子供たちは楽しかったようです。スタッフがホースで水をかけ、子どもたちは水鉄砲やバケツなどでそれに応戦するやり取りが、大盛り上がりでした。ホースの水を縄に見立てて、ジャンプしたり潜り抜けたり、滑り台に水を流してウォータースライダーにしたり、　(⇒)

活　動　報　告

県委託　東部圏域の不登校ひきこもり支援　居場所「なごみ」

7月の伊豆山土砂災害で亡くなられた方へのご冥福をお祈りいたします。また、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、7，8月はあまり夏らしくない陽気が続きました。しかし、梅雨のような長雨が終わると一気に日中の気温が上昇し、残暑の暑さがやってきました。そんな中で「なごみ」では熱中症対策にも気を配りながら、新型肺炎コロナウィルスからの感染予防にも努めてきました。開所日にはそうじの際には必ず除菌をし、エアコンで温度管理をして換気をしながら活動を行ってきました。利用者さんや見学の方には手指の消毒と検温をお願いして活動を行ってきました。飲食の制限があり、外出も必要最小限に抑えて、室内メインにしてペーパークラフトやゲームなどの活動を行ってきました。

8月に国から発表があった『まん延防止対策』に従って、感染防止を徹底して行い、活動を続けてきましたが、8月20日から「緊急事態宣言」発令により、静岡県の指導で9月12日まで閉所することとなりました（8月末現在）。やっと自宅以外で居る場所ができた利用者さんたちがまた元の生活に戻ってしまわないか、気がかりなところはありますが、つながりが切れないようにコンタクトを取っていきたいと思っています。

今はいろいろなことが制限されて不自由な思いをしていますが、この時期を乗り越えたら、また食事をしたり外出ができるもとの生活に戻れることを信じて願っています。

県委託　伊豆圏域の不登校ひきこもり支援　居場所「とっこ」

「とっこ」の会場は伊豆市生きいきプラザ、狩野川沿いの自然に恵まれた場所です。川を渡ってくる風に吹かれると涼しく、清々しい気持ちになります。

今年度は女性の利用者さんがほとんどなので、いろいろと手仕事をしています。和紙でランプシェードを作ったり、ビーズアクセサリーなどの材料や作り方をYouTubeなどを見ながらかわいいものを探します。夏はビーズでいろいろなものを作りました。利用者さんの力で入口ののれんも新しいものができつつあります。「とっこ」の名前を刺繍で作ってくれました。「とっこ」においでの時には、ぜひご覧ください。

6月には梅雨の合間をぬって、中伊豆の六仙の里に行きました。遊歩道にずらり並んだアジサイが見頃で、各々アングルを工夫して撮影しました。ゆっくり歩きながら、いろいろ散策して30分ほど一周してきました。お天気もさほど暑くなく、とても過ごしやすかったです。

ボードゲームも増え、利用者さんと対戦しています。「リバーシ」をスタッフと利用者さんで対戦したり、スタッフが持ってきた「人生ゲーム」などをしながら、トークに花が咲くこともあります。利用者さん一人一人が自分のペースで快適に過ごせるよう、スタッフ一同、心を配ります。

8月20日からの緊急事態宣言の間は休所となりましたが、秋の活動も充実させて行きたいと思います。

いろいろな遊びが生まれました。

雨の日には、いろいろな工作に取り組み、いつになく集中する子どもたちの姿に感心することもありました。完成した作品を近くに遠くに眺めて、嬉しそうにする姿も印象的でした。

新型コロナウィルスの問題がなければ、沼津の「かりん」との交流も行っていきたいと思っていますが、まだ実現できない状況です。この状況が一日も早く解消され、子どもたちが安心して生活できる平穏な日々が戻りますように。